

犬・猫の生態
シリーズ⑥

夏の疲れの回復は必要、でも食べ過ぎは要注意…

秋～冬に向けたベストな食事を考える

ワンフーご愛用の方は充分ご存知かも知れませんが、

ワンちゃん・ネコちゃんの変わらぬ健康のため再認識して頂きたい「生態」をお伝えします。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

夏の疲れを癒し、冬に備えるには高たんぱく食。

秋は夏の疲れが出る季節です。気温の変化で体調を崩しやすくなる季節もあります。特に、夏バテで食欲がもどらなかったり、高齢や妊娠中だったりする場合は、フードの内容を高たんぱく食に切り替えてみましょう。食欲を取り戻し、冬に備えた栄養の蓄えになります。また、暑さあまり動かなかった真夏に比べ、涼しくなると活発に動きたくなるものです。散歩を欠かさぬようにして、運動量も増やしましょう。しかし、急に運動しすぎると、夏の疲れで負担になってしまうこともあるので、軽い散歩から体力をならしましょう。

**でも、ワンちゃん・ネコちゃんは
食い溜めができるから要注意。**

元来、ワンちゃん・ネコちゃんは肉食動物です。肉食動物と草食動物では、肉と植物では含まれる栄養価が異なるので、食べる量と間隔も異なります。肉はいわばたんぱく質の塊。エネルギー量も高く、肉食動物は一回満腹になるまで食べてしまえば数日間絶食しても大丈夫な体になっています。そのため、「夏で疲れているからよく食べる!」「食欲の秋だから!!」といって食べさせすぎることは禁物です。

だから、秋～冬は特に体重管理をこまめに!!

ワンちゃん・ネコちゃんの「食欲の秋」は、自然の中で冬を越すための「食い溜め」の名残。10月頃～12月頃まで続きます。自然界では冬になると食料が乏しくなるため冬眠したり脂肪を蓄えたりするためです。ですから自然界と同じように食い溜めさせると肥満や病気の原因になってしまいます。とはいえ、夏の疲れを回復させるために良く食べる面もあるので、どれくらい食べさせてよいか判断の難しいところ…。わかりやすいのはやはり体重管理。こまめな体重管理で健康的な秋・冬を過ごしましょう!!

**ワンフーのフードは「高たんぱく」なのに
「低脂肪」だから冬に備える食事にピッタリ!!**

ワンフーは「高たんぱく」で「低脂肪」なウサギ肉の生肉を使用し、様々な天然健康食材を配合したスローフードです。国内外の様々なペットフードと比較しても、「高たんぱく」で「低脂肪」という面で大変優れています。さらに「低コレステロール」であり「必須アミノ酸が豊富」という面から考えても大変優れています。秋～冬の「高たんぱく食」が必要なこの季節には、ワンフー以外のドライフードをご利用の方々も、ジャーキーや栄養補助食など積極的にご利用いただければと思います。



フードの安全が脅かされている・・・

ワンちゃん・ネコちゃんを家族にお持ちのみなさまには、すでにご存知の方も多いと思いますが、先日このような記事が様々な新聞やニュースなどで見られました。

米国でペット用ジャーキーを食べた犬が体調を崩したり、死んだりする被害が相次いでいる。製品に含まれる中国産の原料が関係しているとみられるが、複数のメーカー製で被害がでており、症状にもばらつきが多く、なぞが多い。米食品医薬品局(FDA)は、原因解明を急ぐとともに、むやみに与えないよう飼い主に注意を呼びかけている。

米議会の公聴会で17日に証言したFDAのフォーファ副部長によると、ジャーキーによる被害は2007年から出始め、今年5月までに4800件の届け出があった。犬5600匹以上が食後に吐いたり、下痢をしたりして1千匹以上が死んだ。6割は胃腸の疾患、3割は腎臓や膀胱(ぼうこう)に異常があった。

出典:

小林哲(2014年6月30日)「中国産ジャーキーが原因?米で犬1千匹死亡」
<http://www.asahi.com/articles/ASG6V2JHQG6VUHBI00M.html>
(朝日新聞DIGITAL)(参照2014-9-8)

ワンフーは、特殊な個包装を採用した無添加フードを、国内工場から新鮮直送。「安心・安全」を追究しています。

原因は未だ究明中なようですが、どうやら原材料への残留農薬などが原因のようです。米国では、ペットフードメーカーに対して、法律で原材料の生産国の表示や検査基準などの法整備が進んでいないこともこのように自体が続いている原因でしょう。こういった面で、日本の法整備は大変進んでいると言えます。さらに、ワンフーでは国内生産(鳥取県)で、国が設ける基準よりもさらに厳しい基準で検査を行っています。

第三者機関である株式会社消費経済研究所において、人間の食品と同じ基準の食品検査指針を基に、添加物検査(合成保存料・合成着色料・発色剤・酸化防止剤・残留農薬200項目)を行い、安全を確認しています。

みなさまに安心してご利用いただけるフードを作り続けるためには厳しい安全管理が欠かせません。ワンフーの安全管理体制に対するこのような考え方は変わることなく、技術水準に合わせた必要かつ適切な安全管理措置を講じ、必要に応じて是正してまいります。



見守られながら秋の夜

我が家の大黒牛(♂)は、私が死んだふりをすると飛んでき、「どうしたの、どうしたの?」と言わんばかりにとても心配そうに覗きこんで手を使って触ってくる。

その思いやりにみちたような仕草が何とも可愛らしく、よくできた犬だと自慢したいのだけれど、これには理由があって後でちゃんとご褒美がもらえる。時に、このご褒美が気に入って大層待ちどうしく、調子にのってくると、うつらうつらと目を瞑っただけでもタッチされて起こされてしまう。この癖が成功すると、居眠り運転の防止や、授業中の居眠り学生を捜しだし起こして回る犬など想像すると楽しい。

来るべきオリンピックは、“おもてなし”の心で海外の人々を迎えるとしている。車や電化製品などの“物”で引きつけていた時代は終わり、思いやりに満ちた日本人と日本の動物

たちの作る“心”的文化は世界に誇り得る。あの国は、人は勿論のこと犬や猫までも、人に気遣う“おもてなし”を心得ていると知ったら、暖かな“心の温泉”に浸りたくて、世界中の人々が訪ねてくるに違いない。「どうしたの?」そろそろ眠そうな私の瞳をじっと見つめる思いやりに満ちた愛情豊かな犬に見守られながら秋の夜の時間が流れていく。人は自分を気にかけてくれる人や動物がいて幸せなのだ。

日本動物ストレス学会会長
動物介在教育・療法学会名誉理事長
北里大学名誉教授

樋口誠一

